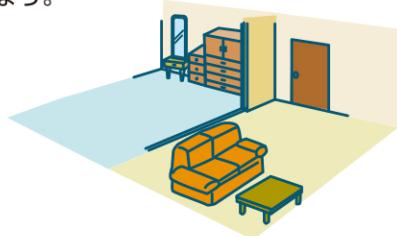


家の中の安全対策

1 家の中に安全な空間をつくる

部屋が幾つもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置きます。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えしましょう。



4 安全に避難するため出入口や通路にものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置きません。また、玄関にいろいろものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうこともあります。



2 できるだけ寝室には家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険です。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性があります。



3 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすくなります。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定します。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全にしましょう。



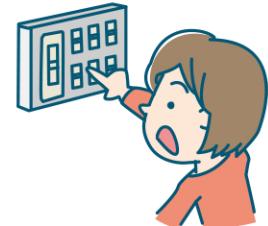
5 電気火災発生の防止

大地震が発生した際には、多数の火災が発生し、多くの人が命や財産を失っています。

地震火災の原因の多くは電気が関連しており、電気機器等(電気ストーブ、電気コンロ等)の転倒による出火や、電気復旧時における通電火災(破損した電気コードのショートによる出火等)があります。

このような電気火災を防ぐため、※感震ブレーカー等を設置しましょう。

※感震ブレーカーとは、あらかじめ設定した震度以上の地震が発生した場合に、自動的に電気の供給を遮断しますので、電気による出火防止に効果的です。



家具の転倒、落下を防ぐポイント

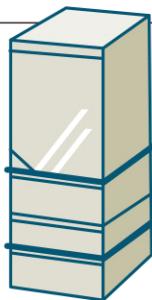
タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかりと連結しておく。



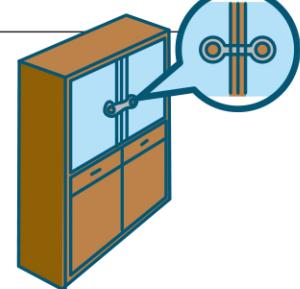
冷蔵庫

2ドアの場合は、扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で固定する。



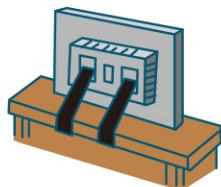
食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下に、軽い食器は上方に置く。扉が開かないように留め金具をつける。



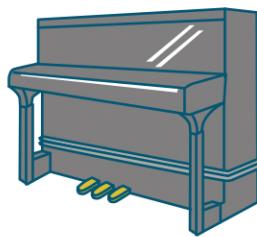
テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。免震ゴムの設置も有効。



ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取り付けた金具などで固定する。足にはすべり止めをつける。



照明

チェーンと金具を使って数箇所留める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで留めておく。



家の周囲の安全対策

屋根

不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。



ベランダ

植木鉢などの整理整頓をする。落ちる危険がある場所には何も置かない。

ブロック塀・門柱

土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。
ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

窓ガラス

飛散防止フィルムを貼る。

プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。